

SERIAL No.	SHIP DATE	INSPECTION

マタレオン
Mataleão APC (M-APC) 取扱書

目次

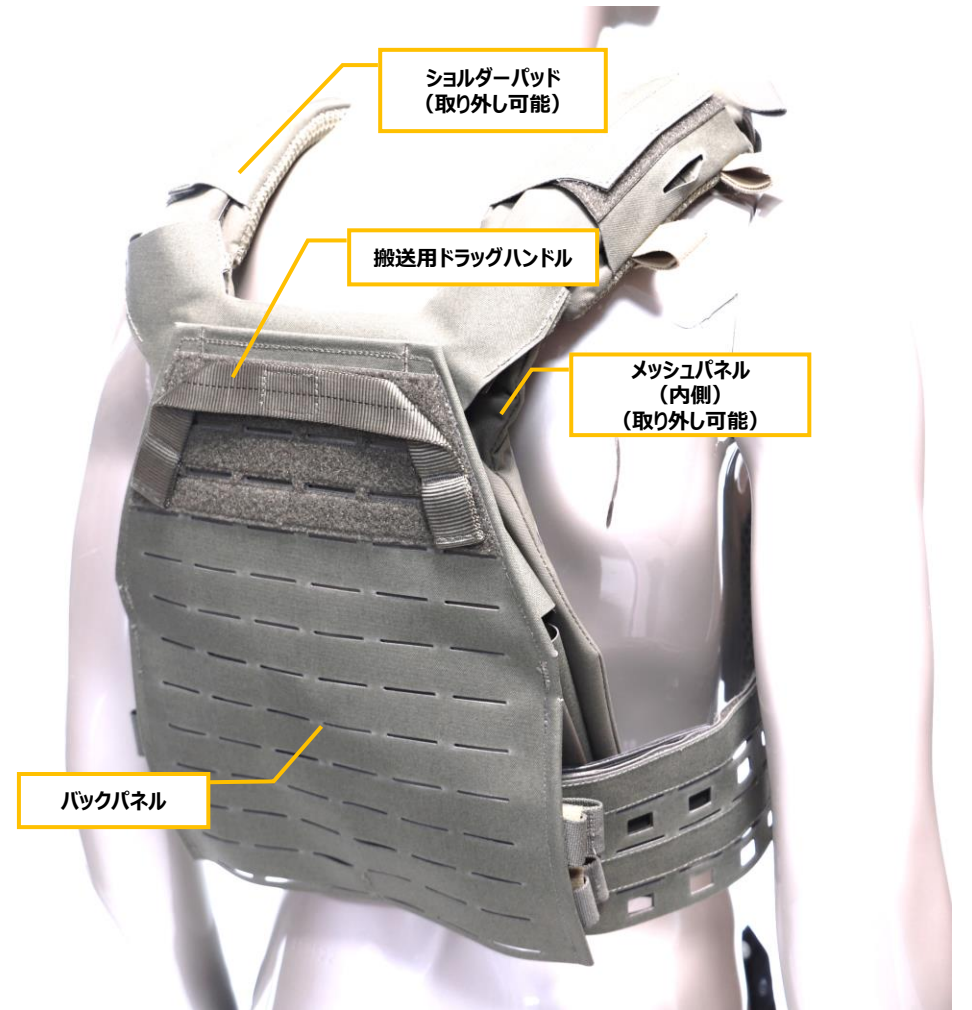
1. 各部名称
2. ショルダーストラップの調節と組み換え
3. 抗弾プレートの固定
4. 付属品の取付と取り外し
5. 他の製品との接続
6. 緊急開放機能
7. チューブバックルの使用方法
8. 修理と部品注文

使用方法と注意事項

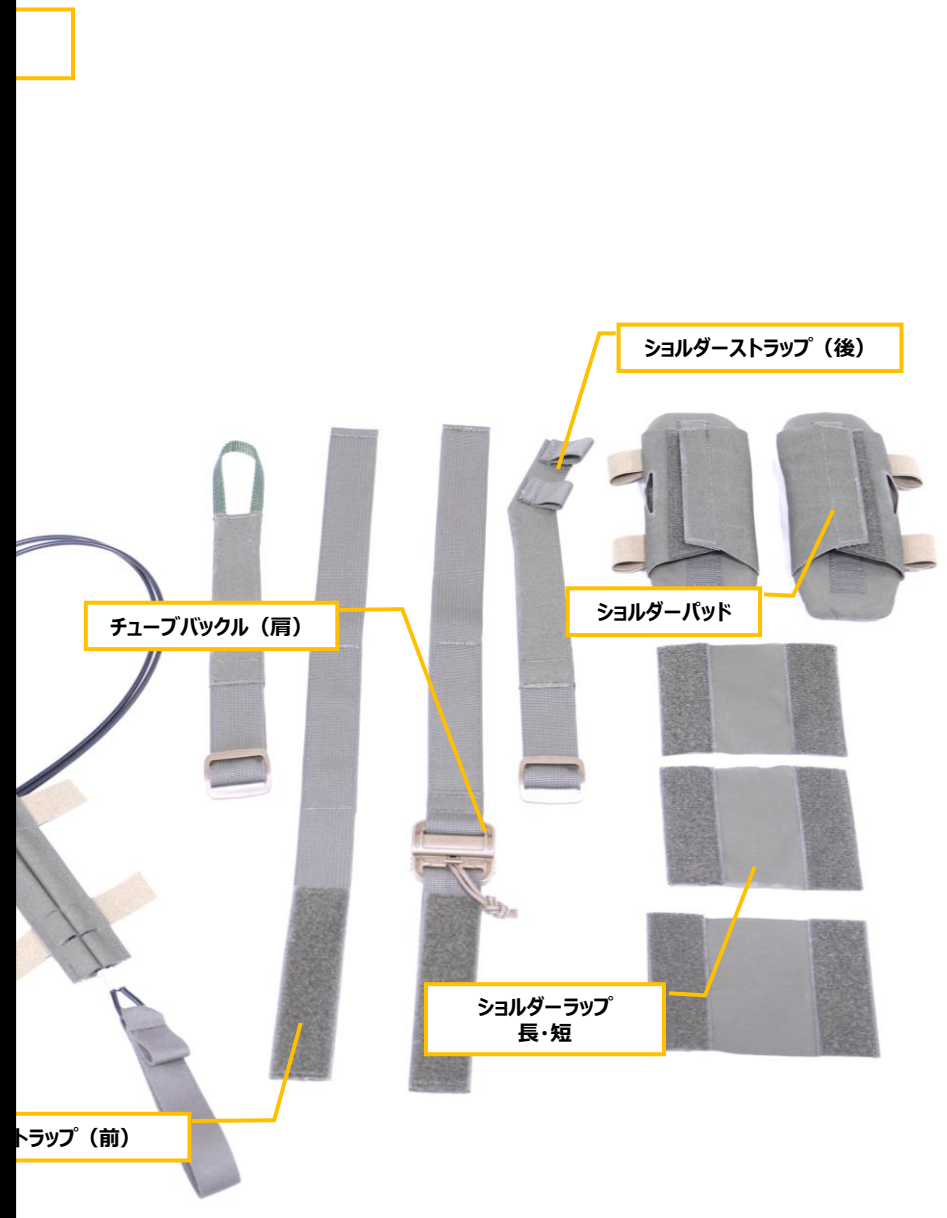
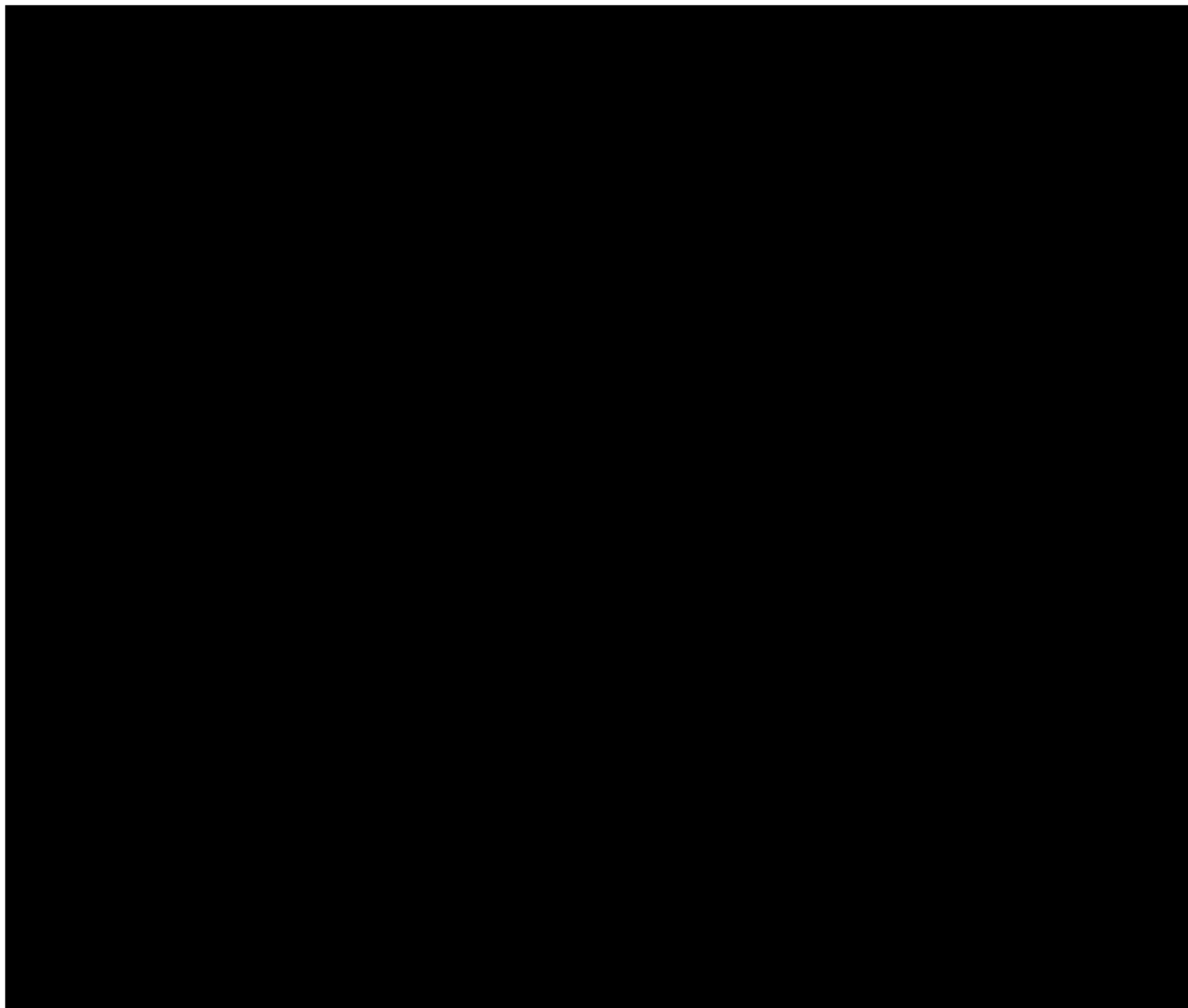
M-APCの機能を正しく発揮させ、安全に使用するために、本書の記載を良く読み、正しく使用してください。

- 各部のサイズを調節してから使用してください。※抗弾プレート挿入状態でフィッティングを行なってください。調節せずに使用した場合、抗弾プレートの位置が適正にならず、重要な臓器を正しく防護できない場合があるほか、抗弾プレートやポーチ類が動き、身体を傷付ける場合があります。
- 着用した状態で身体を動かし、内部で抗弾プレートが動いたり、脱落しないことを確認してから使用してください。
- なるべく使用前に本体の分解・結合を行ない、部品構成と構造を理解してください。あわせて、緊急開放機能を試し、作動方法を理解してください。
- 結合（組み立て）は本書または解説動画の方法に従い、正しく行なってください。結合不良がある場合、緊急開放機能が正しく動作しない場合があります。また、緊急時を除く分解・結合またはプレート調節作業の際は、異物のない広い平らなスペースで行なってください。
- 面ファスナーのオス（フック）側で肌を傷付ける可能性があります。注意して取り扱ってください。
- 陸上自衛隊迷彩のM-APCは、公務による場合を除き、日本国外へ持ち出さないでください。

1. 各部名称(主要部)



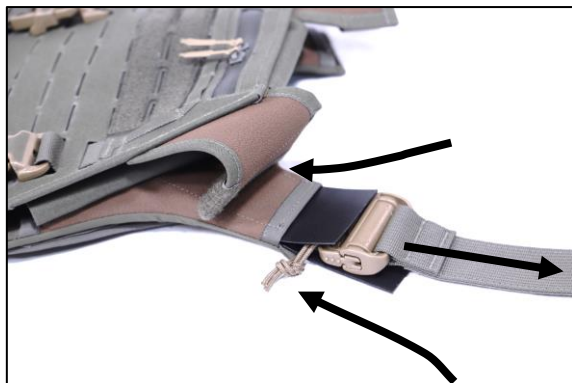
1. 各部名称(プレート保持部・ショルダーストラップ)



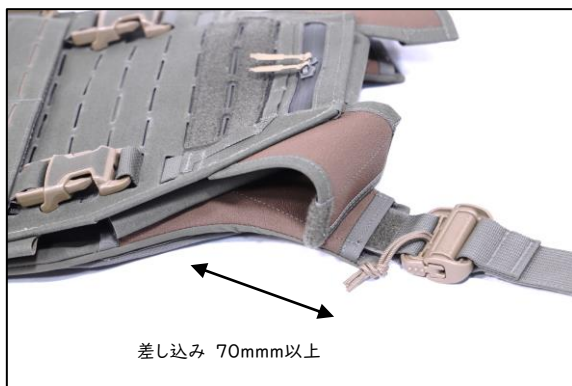
2. ショルダーストラップの調節と組み換え

M-APCは様々な使用者の体型・または防護服、ソフトアーマーの着用などに、ショルダーストラップの調節で対応することができます。

(1) ショルダーストラップの組み立て

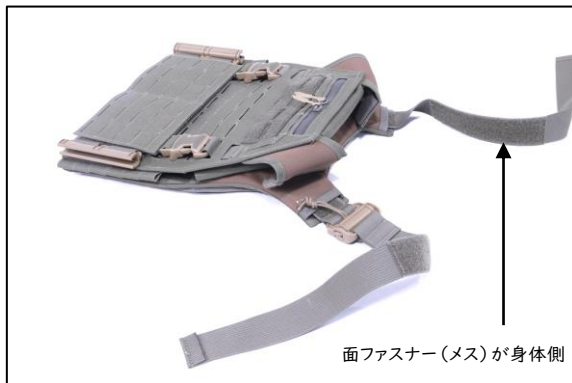


①フロントパネル内部に面ファスナーがあり、ショルダーストラップ(前)を固定しています。
スプリッターをショルダーストラップ(前)の上下に挿入し面ファスナーの接続を解くことで、差し込み部分の長さ(深さ)や角度の調節、着脱用バックル(肩)の左右入れ替えが可能です。
※チューブバックル(肩)の引き手が前(身体の反対側)に出るように挿入してください。



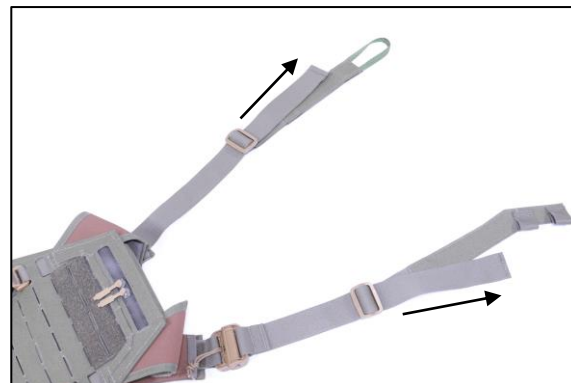
差し込み 70mm以上

②ショルダーストラップ(前)を任意の位置・角度に保持したままスプリッターを1枚ずつ抜き取り、面ファスナーを貼り合わせてください。
※差し込む部分の長さを最低70mm確保してください。
※チューブバックル(肩)の動作を阻害しないよう位置を定めてください。

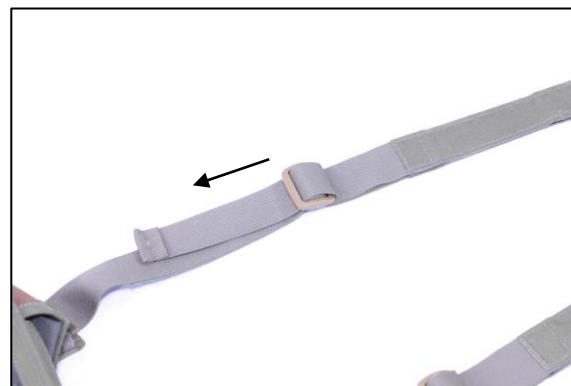


面ファスナー(メス)が身体側

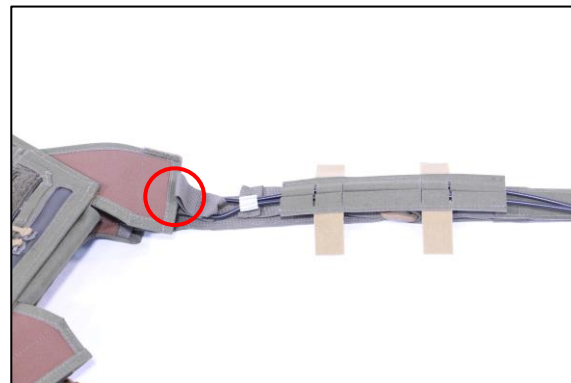
③左右のショルダーストラップ(前)には表裏があります。
面ファスナー(メス)が内側(身体側)になるように取り付けてください。



④ショルダーストラップ(後)のバックルにショルダーストラップ(前)の端末を通します。この際に、任意の長さに調節してください。
※生産時期により、バックルの形状が図と異なる場合があります。



⑤ショルダーストラップ(後)の端末は、図のように折り返しておくことをお勧めします。
※生産時期によりバックルの形状が異なる場合があります。

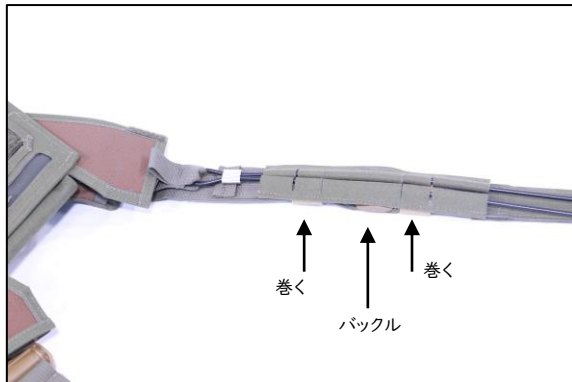


⑥ページワイヤをワイヤスリーブに通し、チューブバックル(肩)の無い側のショルダーストラップに重ねて位置を決めます。
ワイヤタブ(引き手)の長い方を鎖骨カバー内に挿入し、短い方を露出させてください。

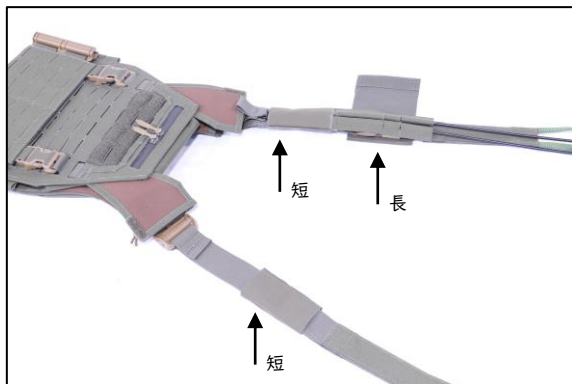
2. ショルダーストラップの調節と組み換え

※抗弾プレートを抜いた状態で作業してください。

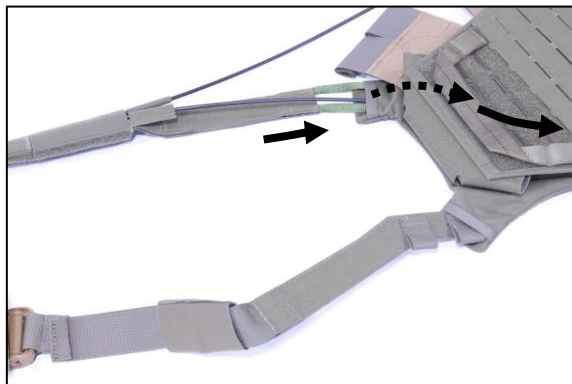
(2) パージワイヤ(内)接続



①ワイヤスリーブをショルダーストラップに巻き付けます。
図のように、ショルダーストラップ(後)のバックルをまたぐように巻きつけることをお勧めします。
ワイヤスリーブの位置が上手く合わない場合、下図のようにスリーブのスリットをスキップして微調整してください。



②ショルダーラップをショルダーストラップに巻き付けます。
パージワイヤ側の後側は太くなるため、長を使用してください。
※固定を確実にし、不意に分解することを防ぐため必ず巻き付けてください。



③内側(着用時に首に近い側)の緊急開放ワイヤをバックパネル上部のスリットから挿入し、端末をバックパネル内のワイヤ取り出し穴から出します。
同時に、両方のショルダーストラップ(後)をスリットに挿入します。
この時点では、外側の緊急開放ワイヤは外に出したままで構いません。

④ショルダーストラップ(後)を、バックパネル内の四角いスロット部分で重ね合わせ、先端のループをスロットから露出させます。
重ね方は下図を参考にしてください。
パージワイヤを、インナーワイヤスリーブとスロットから露出させたショルダーストラップ(後)のループに通します。

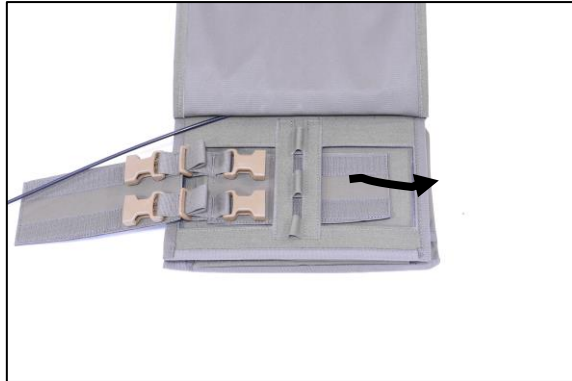


⑤ワイヤの端末を図の位置に収納してください。

⑥外側のパージワイヤを、バックパネル内側の横長スリットに通します。

2. ショルダーストラップの調節と組み換え

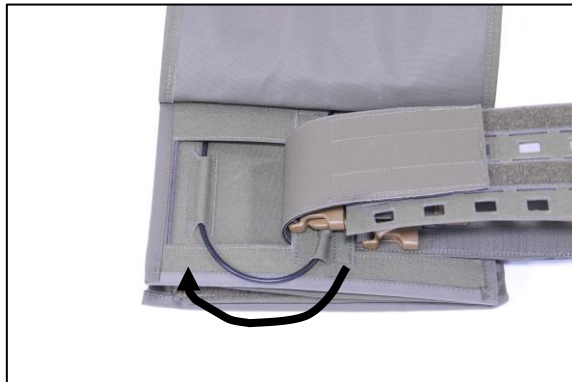
(3) パージワイヤ(外)の接続~完成 ※この作業は抗弾プレート挿入状態でも行なえます。



①バックパネル下部を開放し、背面の左右接続パーツを組み立てます。
一方のプラスチック環にもう一方のループを通し、背面スリットの下に通します。
※左右の区別はありません。



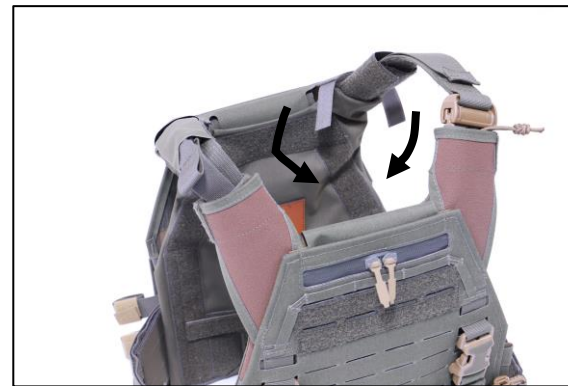
②組み立てた接続パーツのループを四角いスロットの下側から露出させ、
ワイヤをワイヤスリーブと接続パーツのループに交互に通します。
ワイヤの端末は端末留めに挿入してください。



③ワイヤの端末を端末留めに挿入してください。



④カマーバンド/サイドパネルを接続し、ボトムラップを留めます。
カマーバンド/サイドパネルは接続パーツのバックルで調節できます。
※カマーバンド/サイドパネルの上下にご注意ください。



⑤前後左右のショルダーカバーを巻き付けて留めます。

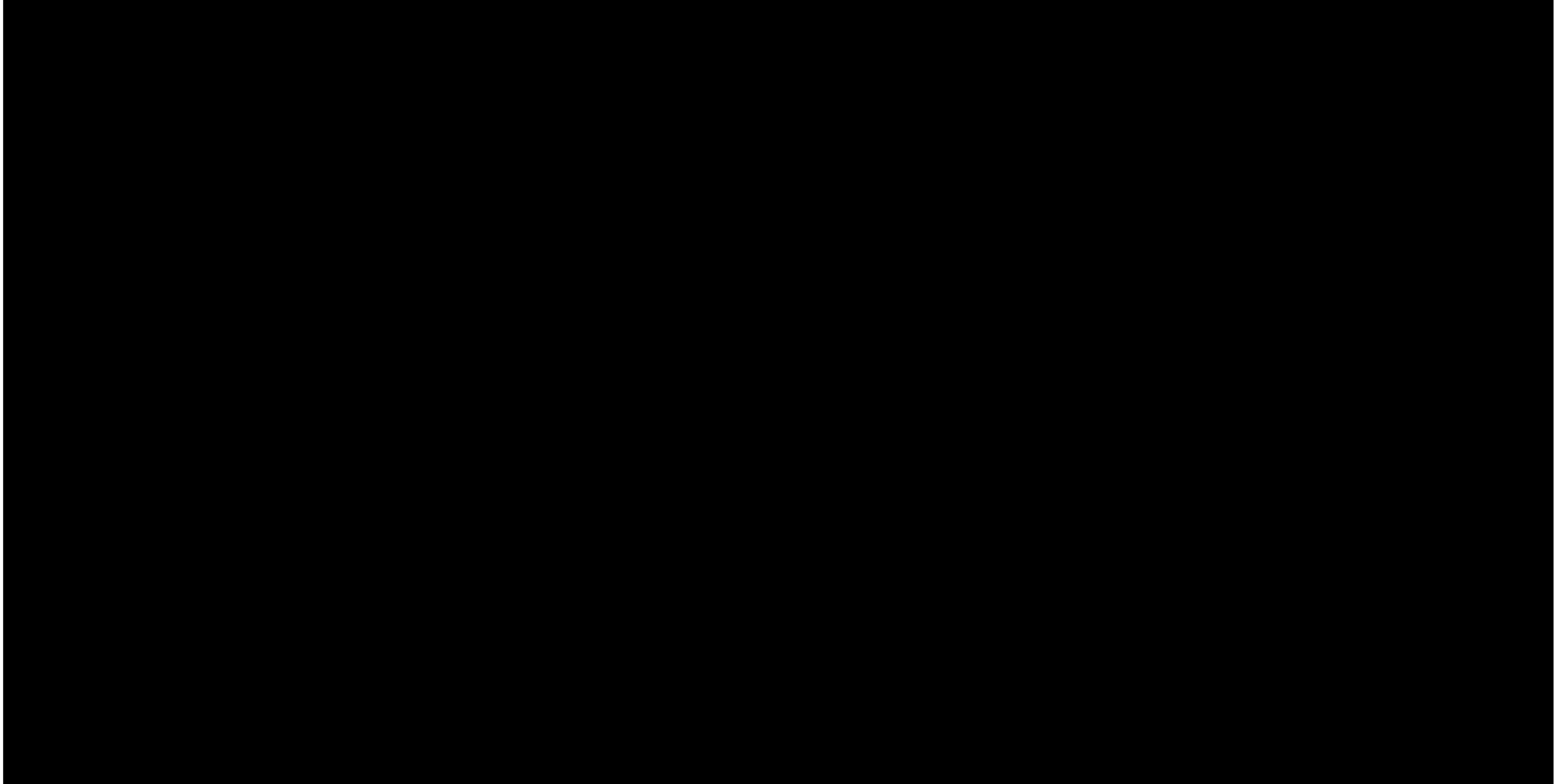


⑥パージワイヤがなるべく露出しないようショルダーラップを整え、ショル
ダーパッドを巻き付けてください。
ショルダーパッドは取り出しても使用できますが、装着することをお勧めし
ます。
※ワイヤが露出していると、行動中に引っかかる等してAPCが分解する危
険性があります。

3. 抗弾プレートの固定

M-APCは様々なサイズ・形状の抗弾プレートを収納することができます。図はバックパネルです。フロントパネルも概ね同様の手順で行なってください。

※ショルダーストラップとパージワイヤの組み立てを先に行なってください。



4. 付属品の取付と取り外し

一部のパーツは取り外し可能です。用途などにあわせてご使用ください。

(1) ショルダーパッド

(2) フロントカード

フロントカードおよびフロントカード接続バックルを取り外して使用することができます。

(3) カマーバンド/サイドパネル

カマーバンド/サイドパネルをキャンセルする場合、別売のスプリットバーバックルと1インチ幅ストラップをフロントパネルに直接接続し、カマーバンド/サイドパネルの代用とすることができます。

※この場合、左右ストラップの後端にはサイドリリースバックル(オス)を取り付ける必要があります。

(4) メッシュパッド

身体面のメッシュパッドは面ファスナーにより固定されています。取り外して使用することができるほか、お手入れの際に便利です。

5. 他の製品との接続

M-APCは、全体に設けられたPALS/MOLLE規格のスリットを利用して任意の位置にポーチ類を取り付けて使用できます。また、別売りのUCP (Universal Chest Platform)、またはCem quilosソフトアーマーキットを接続して使用できます。

(1) PALSスリットへの取付

各部のスリットへ任意のポーチ等を取り付けてください。カマーバンド/サイドパネルは2層構造であり、表・中・裏が利用可能です。

(2) UCPの取付

ア フロントカードを取り外し、UCPと交換してください。

※UCPのチェストパネルは使用しにくくなります。取り外すか、内側に折りたたむことをお勧めします。UCPのチェストパネルを使用する場合、M-APC側に取り付けるバックルを、「QASM型」から「スプリットバー型」に変更してください。

イ UCPのサイドパネルのストラップを、バックパネル内のバックルに接続してください。

※M-APCのサイドパネルをそのまま使用することもできます。

(3) Cem quilos (ソフトアーマーキット) の取付 ※ Cem quilos (ソフトアーマーキット) は2024年1月現在、開発中の製品です。生産は行なっておりません。

ア 前後パネルのメッシュパネルを取り外し、露出した面ファスナーにCem quilosの前後パネル面ファスナーを貼り合わせます。

イ サイドパネルの内側面ファスナーに、Cem quilosのサイドアーマーを貼りつけます。

ウ ショルダーパッドを取り外し、Cem quilosのショルダーパッド(兼ショルダーアーマー)を取り付けます。

(4) 上記のほか規格が合致すれば、ブラカード・カマーバンド・ショルダーパッドは社外品を使用できます。

(5) サイドプレート

カマーバンド/サイドパネルのポケット構造+面ファスナーを利用して側面にも抗弾プレートを取り付け可能です。

※サイドプレートバッグは2024年1月時点で開発中の製品です。販売開始をお待ちいただくか、社外品をご使用ください。

6. 緊急開放機能

M-APCは、肩のパージワイヤを引き抜くことで前後が分離する緊急開放機能を備えています。落水時や救護処置の際に身体からM-APCを分離できます。

必要が生じたならば躊躇なくM-APCを破棄してください。M-APCは高価なギアですが、生命・身体の安全より遥かに安価です。任務上、止むを得ずM-APCを破棄し、回収ができなかった場合はご相談ください。できる限りのサポートを行いません。

以下の使用上の注意を十分に理解し、正しく使用してください。

- (1) M-APCの緊急開放機能は緊急時の脱衣を補助するためのもので、あらゆる条件下で**必ず作動することを保証するものではありません。**
- (2) 着用者が仰向けの状態(仰臥位)の場合など、姿勢によってパージワイヤの引き抜き抵抗が大きくなる場合があります。動かせる場合は体を横向き(側臥位)にしてワイヤを引いてください。
- (3) **緊急時において緊急開放機能に問題が生じた場合は、フロントパネルと肩のバックルを開放する、または任意の箇所を切断する等の手段にただちに切り替えてください。M-APCは修理できます。生命や身体の安全と天秤にかけらるべきものではありません。**
- (4) ワイヤが変形する、またはワイヤの被服が損傷する等、ワイヤに問題が生じた場合は速やかに交換してください。
- (5) バックパネルに縛着して前面で使用する形状のスリング等、前後パネルを横断する構造のアクセサリーを使用すると、緊急開放機能の作動を阻害する場合があります。
※これらのアクセサリーを使用する場合は自己責任でご使用ください。
- (6) 使用時、保管時問わずパージワイヤを強く曲げないように注意してください。



①ショルダーストラップ部分にワイヤタブ(短)を露出させておきます。



②ワイヤタブ(短)を引くことで、ワイヤタブ(長)が露出します。



③ワイヤタブ(長)を引き抜き、フロントパネルを身体から引きはがしてください。

※パージワイヤを引く前に、周囲および足元の安全を確保してください。
パネルを引きはがすことで分離するよう設計しておりますが、前後パネルの重量、または姿勢によって、前後パネルが自重で分離する場合があります。前後パネルの落下により怪我をしたり、物品が破損する危険性があります。

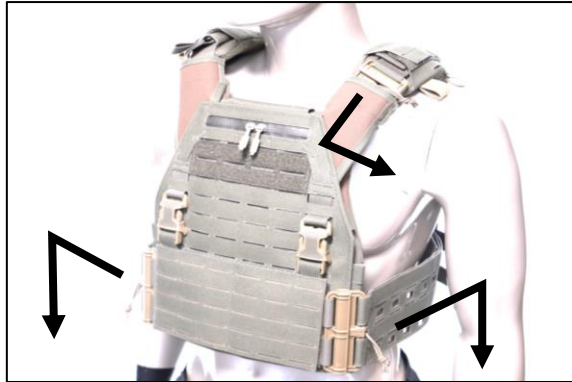


④図のように分解されます。

※前後が分離するため、前後パネルをまたぐ(繋ぐ)形態のスリング等の使用には注意が必要です。

7. チューブバックルの使用方法

M-APCのクイックリリースバックル(両脇・肩)には、Duraflex Tubes V2を使用しています。



バックル中央に露出している引き手(ナイロンコード)を引きながら横方向にスライドさせることにより解放できます。

外しにくい場合はメス側を押さえながら操作してください。

極端に強い力を入れても外れない場合、操作方法が間違っています。

接続する際は横からスライドさせ、ロックがかかるまで押し込んでください。

※無理な力を加えないでください。

※解放する際に、意図せず勢いよくスライドする場合があります。顔や手指に当たる等しないよう、特に慣れるまでは慎重に捜査してください。

8. 修理と部品注文

修理または交換用部品が必要な場合、次の手順に従ってサポートをご依頼ください。

(1) メールにて製品の状態をご連絡ください。その際、シリアルナンバーをご記載いただき、可能であれば修理が必要な箇所の画像をお送りください。

(2) 折り返し、修理の可否、納期、費用(有償の場合と無償の場合があります)等をお知らせいたします。

(3) 修理の場合、装着しているポーチ類を外し、抗弾プレート等の収納物を抜いて製品を弊社までお送りください。

※次の場合、修理をお断りする場合がございます。

・故意(公務による交戦、または訓練中に破損した場合を除きます)または重大な過失によって破損した場合または縫製箇所を意図的に分解したと判断される場合

・シリアルナンバーが不明な場合または購入者情報が特定できない場合

・特殊武器(核、放射線兵器、化学兵器、有毒化学剤等)、または血液等に曝露したもので、十分な除染がされていない場合

・上記以外の理由により修理が困難と判断される場合

(4) 修理のほか、カスタムのご相談も承ります。

田村装備開発 株式会社
355-0008
埼玉県東松山市 大谷4453



修理依頼フォーム
※メールアプリが起動します。



田村装備開発ウェブサイト